

平成 30 年度 吹田市肺がん検診精度管理委員会 議事録(要約)

1 日時 平成 31 年 2 月 13 日(水)午後 2 時～3 時

2 会場 保健センター3 階 特別会議室

3 出席委員

相馬孝委員長、伴秀利委員、長澄人委員、山根宏之委員、横内秀起委員、川西克幸委員、北川幸子委員

4 欠席委員

柴田敏之委員

5 市出席者

健康医療部保健センター

参事 岸敏子、主幹 米崎俊行、主幹 村山靖子、主査 松井大祐、主査 幡中美沙、主任 金子美和子

6 内容

(1) 委員紹介・事務局紹介

(2) 委員長選出

(3) 報告・周知事項

ア 平成 30 年度 吹田市肺がん検診・結核検診実施状況について…資料 1

委員からの意見

A 委員

(受診率について)

吹田市では、65 歳以上は結核検診を受診するよう促している。肺がん検診受診率の報告において、40～69 歳で算出しているものがあるが、65 歳以上の結核検診受診者は、肺がん検診受診者に計上していない。65 歳以上の結核検診受診者数を含めた場合、肺がん検診としての受診率は、さらに増加することが容易に想像できる。

(個別検診の要精検率について)

表2において、平成 28 年度から要精検率が上昇傾向であり、許容値である 3.0%を超えている状況が続いていた。しかし、がん発見率と陽性反応適中度は許容値内であり、むしろ良好な成績である。よって、要精検率が高いのは本当に必要な方を要精検と判定しているとも言えなくない。一方で受診歴(過去1年間に肺がん検診を受診しているのかどうか)や全国・大阪府と比較した吹田市の肺がん有病率等も鑑みて、総合的な判断を行う必要性がある。

(がん発見について)

個別肺がん検診が開始された当時は、発見される肺がんのほとんどが一次読影で発見されていた。しかし、近年においては一次読影での発見と二次読影での発見は、ほぼ同割合。二次読影のシステムが機能しているからこそだが、さらに読影医のスキルアップに努める必要がある。

イ 平成 30 年度 肺がん検診チェックリスト集計結果について…資料2

【決定事項1】

平成31年4月からの喀痰検査の対象者は、国の指針に基づき、以下のとおりとする。

- 年齢は50歳以上で、喫煙指数600以上とする。(H29年度委員会内での決定事項)
- 血痰があるものは喀痰検査の対象外とし、検診ではなくすみやかに専門機関を受診し、精密検査を行うように勧める。

委員からの意見

A 委員

血痰のある者は検診の対象外とすることについて国の指針が示されている。実際に喀痰検査から、がん発見にいたるケースが非常に稀であることから、指針に従うのが妥当と考える。

B 委員

受診票に、血痰のある方は肺がん検診の対象外であることが明記されているような問診項目設け、受診者や医療機関側も血痰の有無について把握しやすい受診票レイアウトの工夫が必要である。

C 委員

約20年前は、喀痰検査で肺がんが発見された方は、現在よりも多かった。昔を知っている立場としては、喀痰検査の規模が縮小することは、多少の不安感が残る。一方で、ここ十数年でみると喫煙率の減少に伴い、喀痰検査によるがん発見数は明らかに減少している。この10年間でみると、当施設での喀痰検査によるがん発見例は2例にとどまる。よって、喀痰検査の対象範囲の縮小は、やむを得ないと考える。

エ 杉並区事例紹介

東京都杉並区の医療機関で実施された、肺がん検診における、がん見落とし事例の情報共有を行った。

(4) 検討事項

ア 読影体制及び総合判定について…資料4

【決定事項2】

一次読影でDまたはE判定の場合であっても、全数について二次読影を実施する。開始時期や手法は今後検討とし、実現に向けて取り組む。

委員からの意見

A 委員

吹田市の肺がん検診では、一次読影で要精検の判定が出た場合、二次読影は実施せず、一次読影医の判断で即時、精密検査に紹介することになる。乳がん検診の読影体制は、一次読影時点で、がんが疑われるケースについては、二次読影実施を待たずに精密検査を実施している。このような場合であっても、並行して二次読影は行うようにしており、マンモグラフィ撮影の全例に対して、二次読影を実施している。肺がん検診も同様に、二次読影の実施が多少遅れをとったとしても、二次読影を全数実施する必要があるのではと考える。

B 委員

件数はどのくらいか。

事務局

全数に二次読影を実施した場合、年間 300 件程度増える見込みである。

B 委員

肺がん検診を実施している約 120 医療機関への周知と手順の浸透は容易ではなく、きちんと二次読影に撮影画像を提出してもらえようような運営体制の構築は大きな課題となる。

A 委員

二次読影体制を変更することは、簡単ではないと思うが、実現可能な方法で努力することは必要と考える。

～ 終了 ～